1 自己評価及び外部評価結果

（ユニット名　　よつば　　）

事業所番号	0672300381		
法人名	社会福祉法人　さくら福祉会		
事業所名	グループホームかほく		
所在地	山形県西村山郡河北町谷地字砂田207－1		
自己評価作成日	平成28年　9月　9日	開設年月日	平成16年　7月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成　28年　9月　27日	評価結果決定日	平成　28年　10月　18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームかほくでは「**か**ほくで　**ほ**っとする　**く**らし」を合言葉にご利用者の皆様に笑顔で穏やかに過ごしてもらえるように日々取り組んでいます。またユニット毎にもユニット心得を定め、ご利用者様が日々の生活に張りと生きがいを持って貰えるように支援しています。
河北町は四季の変化に富み、恵まれた自然環境にあります。このよりよい環境を活かしながら外出や地域の行事にも出来る限り参加させて頂いて慣れ親しんだ地域で過ごしてもらえるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

米1ユニット目に記載

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1．ほぼ全ての利用者の
		○	2．利用者の2/3くらいの
			3．利用者の1/3くらいの
			4．ほとんど掴んでいない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,37）	○	1．毎日ある
			2．数日に1回程度ある
			3．たまにある
			4．ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：37）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：35,36）		1．ほぼ全ての利用者が
		○	2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：48）		1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
		○	3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：29,30）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
51	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1．ほぼ全ての家族と
			2．家族の2/3くらいと
			3．家族の1/3くらいと
			4．ほとんどできていない
63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1．ほぼ毎日のように
			2．数日に1回程度
		○	3．たまに
			4．ほとんどない
64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1．大いに増えている
		○	2．少しずつ増えている
			3．あまり増えていない
			4．全くいない
65	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1．ほぼ全ての職員が
		○	2．職員の2/3くらいが
			3．職員の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1．ほぼ全ての利用者が
		○	2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1．ほぼ全ての家族等が
			2．家族等の2/3くらいが
			3．家族等の1/3くらいが
			4．ほとんどできていない

山形県地域密着型サービス「1　自己評価及び外部評価（結果）」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	（1）	**○理念の共有と実践** 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の経営理念を元にしながら、事業所としての理念とユニットごとの心得を作成し、毎日の朝の申し送り時に唱和し理念に沿ったケアが出来るように心掛けている。		
2	（2）	**○事業所と地域とのつきあい** 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年6月から11月まで、地域のロータリーの花壇の清掃に参加している。利用者の方と共に一緒に参加している。		
3		**○事業所の力を活かした地域貢献** 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	かほく通信（広報）を作成し地域で回覧してもらっている。事業所での活動の様子などを掲載するなどし、事業所での取り組みを紹介している。		
4	（3）	**○運営推進会議を活かした取組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町職員、町内会長、民生委員、ご家族代表、ご利用者代表に参加してもらい2ヶ月に1回開催し入居者の状況や活動内容などを報告し地域行事の情報や質問、意見をいただいている。		
5	（4）	**○市町村との連携** 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営面や介護保険、諸手続きの疑問等は、担当者に問い合わせ、相談し、適切な返答を頂いている。又、町の介護保険サービス調整会議構成員になっており、様々な情報を共有している。		
6	（5）	**○身体拘束をしないケアの実践** 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束についての外部研修への参加、事業所内の勉強会で身体拘束の具体的な行為や弊害について理解を深めるように努めている。身体拘束廃止委員会を設け職員会議の際に状況を確認し拘束のないケアに努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事業所内外の研修を通して、虐待の防止に関する理解を深めるようにしている。入居者についての共通認識、対応について、申し送り時のミーティングや職員会議、ケース会議等で協議、検討をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、1名の対象者がおり後見人がついている。研修会や勉強会の機会をもう少し活用し全職員が理解をもっと深めていけるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安なく入居できるように十分な説明の時間を取って説明している。又、わかりやすい言葉で、説明するように心掛け、質疑があった場合にはその都度再度説明している。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に日頃の様子を報告しながら意見や要望をお聞きしている。。玄関に「意見箱」を置き、意見や要望、苦情を記入し出せる体制をとっている。年1度ではあるがご家族とのお茶会として懇談の機会を作ってる。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議を行って、職員の意見、提案を聞く機会を設けている。又、常日頃から意見を出しやすい雰囲気作りに心掛けている。法人の月1回のブロック会議で管理者は、意見や提案を出しブロック長を通して代表者へ届くようになっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況、本人の体調面、意向の確認を定期的に設けている。資格取得を積極的にサポートしている。毎年、定期的な給与アップ等を図り、向上心を持って働けるような工夫、整備に努めている。		
13	（7）	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験と習熟度に応じ、年1回以上の外部研修参加の機会を設けている。研修後は、伝達研修をして情報共有に努めている。勉強会の年間計画があり、月1回、テーマに沿った内部研修を行っている。また法人での研修会の機会もある。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	町の介護保険サービス調整会議、グループホーム連絡協議会に加入し、研修や交換実習に参加している。当法人内でも各委員会の開催により職員同士のネットワーク強化になっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームでの生活に慣れて頂けるよう様、会話を大事に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	小さな出来事でも、連絡させて頂き、信頼関係づくり努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望や意向を取り入れ、ホームで出来ることを説明し、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとり役割りを持って頂き、その人らしい生活が出来る様、努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、生活状況のお便りを発行しています。面会時には、日々の様子をお伝えし、信頼関係を大切にしている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人が気軽に来訪して頂ける様、努めています。居室には、写真や趣味の物を飾ったり、ご家族も参加出来る行事等、企画している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を考慮しながら、食席・ドライブ時の席等に配慮し、孤立しない様、支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話や来訪の際は、速やかに対応し、相談や支援に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から、本人の思い等を把握出来る様努めている。希望に添えない場合は、理由を説明し理解して頂ける様、対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、生活歴をお聞きし、又、日々の関わりでも、本人より話を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事、出来ない事を見極め一人ひとりに合った余暇活動を行っている。又、残存能力を維持するために、毎日体操を実施している。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族の意向をお聞きし作成している。又、担当職員のモニタリングをもとに、ケース会議にて現状や問題点を話し合い、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画への日々の様子の記入と、ケアプラン実施記録へのチェックを行い、介護計画の見直しに活かしている。		
		○地域資源との協働			

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の小学校のボランティアを受け入れたり、地域の行事へ参加し、地域の方々と交流を図っている。		
29	（11）	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人、ご家族の希望する医療機関を受診している。受診時は、利用者の様子が分かる書類を渡し、適切な医療が受けられるよう支援している。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週1回勤務しており、利用者の様子を報告し、専門的な立場から適切な指示を仰いでいる。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は医師のもと、適切な治療が行われている。地域医療連携室の指示を仰ぎながら、医師や看護師、ご家族と随時連絡を取り合い、情報の共有に努めている。		
32	（12）	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者やご家族の意向を聞きながら、ホームでの生活が少しでも長く続けて行けるように、医療関係者と共に支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備え、消防署より心肺蘇生法やAEDの訓練を行っている。法人での研修も予定されており全職員が救急講習を受講出来るようにしていきたい。		
34	（13）	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災通報訓練を実施。災害時、即対応できるよう消防署と連携し実践的な訓練をしている。又、災害用の食料を備蓄し災害に備えている。ただ、地域の方々との連携という面ではまだまだ出来ていない為、今後の課題である。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	（14）	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりのプライバシーに気をつけた言葉かけをしプライドを尊重し気配りを行っている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の話を傾聴し要望や心情をくみ取り、利用者の思いを聞き入れている。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りマンネリ化しない様、希望に添えるように対応している。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	四季に合った服を着て、身だしなみやお洒落が出来るように支援する。また、理容師に定期的に来ていただき散髪を行っている。		
39	（15）	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事や誕生日などには献立を変え楽しんで頂く。食事の準備等では、配膳や下膳など一緒に行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状況を把握し水分を上手く取れない方には、ゼリーなどを提供し、食事量をそれぞれに合わせた形態で提供している。体重増加が心配な方にはお粥にて対応している。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い一人でも出来る方でも一日一回は点検する。介助が必要な方には、利用者に合った方法で実施している。また、訪問歯科を利用し口腔内の健康維持に努めている。		
42	（16）	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレの声かけ・誘導を行っている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の飲物や定期的な体操で自然排便が出来る様に心掛けています。排泄を確認し個々に合った排便コントロールを行い、また便秘がちの方は主治医より薬を処方して頂き調整を行っている。		
44	（17）	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の声掛け、介助方法も利用者に合わせ、入浴時には皮膚観察やコミュニケーションをとり、気分転換に入浴剤を使用している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせ、ホームで過ごす時間を無理強いする事なく居室で休まれる時間を持って頂いている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居室担当が分薬し服薬の管理をしている。変更あった時は、対応した職員が記録に残し申し送りしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の能力に合わせ、出来ること、(テーブル拭き、ふきん干し、食器拭き)のお手伝いをして頂いている。季節ごとの行事、ドライブに行き気分転換を図っている。		
48	（18）	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合った外出先を計画し数人単位でのドライブも実施に努めている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は施設にて行っている。必要物品を職員が購入したり利用者と一緒に買い物へ出掛けている。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との外出が出来る様、家族との連絡を取り調整に努めている。電話して欲しい利用者には、職員が変わりに対応したり本人が直接話したりしている。		
51	（19）	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	過ごしやすい様に温度調整を行って、安心出来る雰囲気作りを心掛けている。共用スペースは清潔にし季節感を取り入れている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った人達で話し合いや、テレビを観たりする場を持てる様にホールにはソファーを設置し思い思いに過ごして頂ける様に工夫している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	（20）	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物、又は、思い出ある写真、布団を持ち込みする事に寄って、本人が落ち着く様に工夫し施設に持って来て頂く様に家族に声掛けしている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりが付いており、安全に且つ自力で移動出来るようになっている。又、トイレや居室にはわかりやすい様に名前を付けて自分の意志で移動や生活が出来る様に工夫している。		